様式第２号

視察研修先	千葉県君津市	氏名	月光裕晶
視察研修項目	君津市商工・観光アクションプランについて		

感想・所見など

君津市では、商工・観光アクションプランについて説明を受けた。

同市では、人口減少や観光ニーズの変化を踏まえ、地域資源を活用した観光振興と地域経済の活性化を図るため、具体的な行動計画を策定し、各事業を着実に推進している。

特に印象に残ったのは、アクションプランの内容が非常に詳細であることである。単に基本方針を示すだけではなく、個々の施策ごとに実施内容や担当部署、実施時期、成果指標まで明確に整理されており、進捗状況を確認しながら計画を実行できる体制が整えられていた。計画を「作ること」が目的ではなく、「実行し成果を上げること」を重視した内容であり、行政運営の参考となる点が多かった。

寒河江市においても様々な計画が策定されているが、今後は事業の進捗や成果をより分かりやすく管理できる仕組みを取り入れることで、計画の実効性をさらに高めることができると感じた。また、観光や産業振興は行政だけで完結するものではなく、関係団体や事業者との連携が不可欠であることを改めて認識した。今回学んだアクションプランの考え方は、寒河江市の今後の各種計画にも活かすことができる有意義な内容であった。

様式第２号

視察研修先	千葉県南房総市	氏名	月光裕晶
視察研修項目	道の駅を拠点とした観光振興について		

感想・所見など

南房総市では、道の駅を拠点とした観光振興について視察を行った。

南房総市では、道の駅を単なる休憩施設や特産品販売施設として位置付けるのではなく、地域の交流拠点として多面的な役割を担わせていることが特徴であった。観光客が立ち寄る施設であることはもちろん、地域住民が日常的に利用できる施設としても機能しており、買い物や情報発信、イベント開催など、地域に密着した運営が行われていた。

特に、観光客のためだけではなく、地域住民にとっても価値のある施設づくりを目指している点が非常に印象的であった。地域住民が利用することで施設に日常的な賑わいが生まれ、その魅力が結果として観光客にも伝わる好循環が形成されていた。

寒河江市においてもチェリーランドをはじめとした観光施設があるが、今後は観光客だけではなく市民が日常的に利用したくなる施設づくりという視点も必要ではないかと感じた。地域の交流や情報発信、防災など、多様な機能を持たせることで、施設の価値をさらに高めることができると考える。今回の視察は、道の駅の可能性を改めて認識する大変有意義な機会となった。

様式第２号

視察研修先	千葉県鋸南町	氏名	月光裕晶
視察研修項目	都市交流施設・道の駅 保田小学校について		

感想・所見など

視察行程の中でメディア等で話題の「道の駅 保田小学校」を見学する機会をいただいた。

保田小学校は廃校となった小学校を再活用した全国的にも有名な施設であり、校舎の雰囲気を残しながら、宿泊施設や飲食施設、物販施設などを整備し、多くの観光客が訪れる施設として成功を収めていた。学校という地域住民にとって思い出深い建物を活かし、新たな交流拠点へと生まれ変わらせた発想力と企画力は大変参考になった。

一方で、施設整備には多額の事業費や国の支援制度などが活用されており、その規模を寒河江市でそのまま再現することは財政面から見ても容易ではないと感じた。しかし、廃校や既存施設を地域資源として有効活用し、新たな価値を創出するという考え方は十分参考になるものである。

寒河江市においても、施設の老朽化や公共施設の再編が課題となる中、既存施設をどのように地域活性化へ結び付けるかという視点は今後ますます重要になると感じた。規模や手法は異なっても、地域の特色を生かした施設活用について検討する必要性を改めて認識した。

様式第２号

視察研修先	千葉県市原市	氏名	月光裕晶
視察研修項目	リノベーションまちづくりについて		

感想・所見など

市原市では、リノベーションまちづくりについて説明を受けた。

この取り組みは、空き店舗や既存施設などの地域資源を活用しながら、新たな事業や交流を生み出すことを目的としており、行政だけではなく民間事業者や地域住民が主体となってまちづくりを進めていることが特徴である。特に印象的だったのは、意欲のある若い人材を積極的に発掘し、その挑戦を行政が支援することで、新しい事業や地域の賑わいを創出している点であった。

人材育成と地域活性化を同時に進める取り組みは非常に魅力的であり、行政がすべてを担うのではなく、市民の主体的な活動を支援することの重要性を改めて感じた。

一方で、市原市は人口規模や産業構造、都市環境などが寒河江市とは大きく異なり、同じ手法をそのまま導入することは難しいとも感じた。しかし、地域で活躍したいという意欲を持つ人材を見つけ出し、その挑戦を後押しする仕組みづくりは、人口規模に関係なく必要な考え方である。

寒河江市においても、地域資源を活用した小規模な取り組みや、若い世代がチャレンジしやすい環境づくりを進めることで、新たな地域活性化につながる可能性があると感じた。人口規模の違いを踏まえながらも、本市に合った形で取り入れるべき視点が多く、大変有意義な視察となった。